

雪の影響大きく、景況感は低迷

1月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部業種では売上や仕事量が堅調に推移する一方、月後半の積雪や寒波が、需要・客足の減少や配達の遅延等、各業種に大きな悪影響を及ぼしている。さらに、短納期・コストダウン要請や経費負担増に伴う収益低迷に加え、若年層を中心とした人手不足並びに後継者不在等で先行き不安が増大している。

製造業	食料品		パンは客単価が上昇する一方、客数は減少しており、高付加価値商品の販売強化でカバーしている状況。製麺は大手企業が好調に推移する反面、中小企業はスーパーマーケットやドラッグストア等での販売不振が見受けられる。食肉は原油価格上昇に伴う重油や電気料金の値上がりで、経費負担が増大している。
	繊維・同製品		桐生織物は輸出向けが商談件数も少なく低調に推移している。ニットは春物商戦の時期を迎えるも、雪の影響等で消費者の購買意欲が落ち込んでおり、売上は減少傾向にある。繊維製品はアパレルメーカーの不調等で苦戦する中、後継者問題が業界における大きな課題となっている。
	窯業・土石製品		生コンは前橋・高崎地区において大型物件がなく、全体の出荷量も前年割れ。コンクリートブロックは若年層を中心に人手不足感が高まる中、寒波等で工事量が落ち込むも手持ち工事の消化は進まず。コンクリート製品は維持・補修工事の増加等の影響で需要が落ち込み、例年に比べて繁忙感も乏しく苦戦している。
	機械・金属		SUBARU関連は国内販売が若干落ち込むも、生産量としては前年並みで推移している。鍍金は電子部品関係が依然好調に推移している。全体としては、短納期・コストダウン要請で収益が伸び悩むなど、景況感にバラツキがあり先行きは不透明な状況。
	その他の製造業		木材は荷動きが好調に推移する一方、原料不足による仕入価格の高騰が引き続き収益を圧迫している。印刷は休日が多く例年同様に苦戦するも、月末にかけては一部企業で受注が増加している。また、企業間格差の顕在化や原材料価格の上昇傾向を不安視している。
非製造業	卸売業		繊維・衣服卸は景況感が横ばい状態の中、ユニフォーム類の売上が好調に推移している。農産物卸は積雪の影響による低温状態で生育不良となり、年末から続く品不足に拍車がかかっている。水産物卸は年末需要の反動減に加え、悪天候による不漁の影響で売上が低迷している。
	小売業		家電小売は厳しい寒さでエアコンの販売が好調となるも、全体では売上・収益ともに減少している。自動車オプションは悪天候や出品保留の影響で、成約・出品台数ともに減少傾向にある。生花小売は成人式等で需要があるも、降雪の影響で客足が落ち込んでいる。商店街は寒さや降雪の影響で苦戦を強いられている。
	サービス業		草津の温泉旅館は本白根山噴火の影響でスキー客を中心に苦戦するも、温泉客の人出は回復の兆しが見られる。吾妻郡域における不動産取引は、人口減少等による需要低迷に加え、後継者不在が事業継続に向けた課題。建築設計は4月からの宅地建物取引業法の改正に伴う建物状況調査業務の受注増加に期待している。
	建設業		解体工事は年度末工期に向けて忙しくなる一方、各自治体の空き家対策助成制度の予算終了に伴い、工事を来年度に延期する場面が見受けられる。電気工事は回復基調にあるも、東京五輪需要に伴う都心への人材流出に苦慮している。塗装工事は横ばい状態で推移する中、人手不足による受注機会の損失を危惧している。
	運輸業		稼働日数が限られる中、降雪による高速道路の通行止めで延着が発生するなど、各地で混乱が相次ぐ。また、タンクローリーは運転手不足や労働時間削減の影響で稼働が制限され、燃料供給に遅れが見られる。小口配送は雪の影響で受注を断る場面が見られるも、全体的には引き続き売上・件数ともに好調に推移している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 117.6(前月比+4.5%)「県統計課・12月」
- 住宅着工戸数 1,275戸(前年同月比+12.9%)「県建築住宅課・12月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.25倍・有効1.66倍「群馬労働局・12月」
- 大型小売店販売額 254億円(前年同月比+1.3%)「経済産業省・12月」
- 消費者物価指数(全国) 101.2(前年同月比+1.0%)「総務省統計局・12月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)